

《資料 2026年度町田市登録文化財候補》案

石阪昌孝墓

指定種別：町田市登録旧跡

所在地：町田市野津田町 2268 番地 2 号

土地所有者（登記）：北村ミナ(美那) *1942(昭和17)年4月10日没

内容：墓・地所

時期：1907(明治40)年5月(推定)

法量：墓石：[縦]約190~200cm×[横]約185~210cm×[高]約271.5cm

外柵石柱：[縦]約18cm×[横]約18cm×[高]約100cm

(ただし、右後上部18cm程度の箇所を折)

外柵範囲：[縦]約300cm×[横]約310cm

墓地面積：99㎡

墓碑銘：正面：「正五位石阪昌孝之墓」

右側面：「雄鎮院殿洪範道昌大居士
淑範院蓮體妙瑩大姉 靈位」

左側面：「雄 明治四十年一月十三日歿
淑 大正二年三月六日歿」

経緯：町田市を代表する自由民権運動家、政治家である石阪昌孝は1907(明治40)年1月13日に牛込区北町の自宅で死去し、同所で15日に葬儀が行われた。その後、故郷である鶴川村野津田(現町田市野津田町)への埋骨という石阪の遺言により同年5月、華巖院で埋骨式法要が行われた。この際に当該地に埋葬され墓が建立されたと推測される。その後、墓を含む周辺の土地は遺族によって売却されたが1913(大正2)年3月に石阪の長女美那が再購入し分筆、5月に墳墓地として登記変更され現在に至っている。

現況：町田ぼたん園フェンスで寸断されているが石阪昌孝屋敷跡地から墓地まで参道が整備されている。墓地は野津田町内会が年1回清掃活動を行っており、墓地敷地内には町田市が建てた説明板が建っている。墓石は竿石の下に上台・中台・芝台があり最下段は石垣をコンクリートで固めた台となっており、石垣台上に花立・水鉢が置かれているが、同時期に作成されたものと思われる。墓石の周囲は四本の石柱で囲まれ、各石柱には石柱間を鎖でつないでいた形跡が残る(石柱一本(右後)は鎖を打ち込んだ穴部分から折れている。また、鎖は全て脊柱からは切れ、一部残っているものは石柱に卒塔婆を固定するために利用されている)。正面には、1990(平成2)年に寄贈された香台がある。

登録理由：石阪昌孝は、幕末から明治初期にかけて地域行政の要職を務め、1879(明治12)年に神奈川県会初代議長に就任した。1881(明治14)年に政治結社融貫社を組織し、翌年に自由党に入党すると旧神奈川県の自由民権運動を代表する指

導者として活躍し、1890（明治23）年の第一回衆議院議員選挙で当選以降、4回連続で当選し、計6年間衆議院議員を務めた。1896（明治29）年から翌年まで群馬県知事を務めた後に政界を引退、1907（明治40）年に亡くなる。没後、現在の八王子市や海老名市に石阪を顕彰する碑が建てられるなどの経緯からも、旧神奈川県を代表する民権家・政治家といえる。

地元である野津田では「昌孝さん」との愛称で呼ばれ、「野津田の自慢はなんたんべえ、石阪昌孝あった事（出した事）…」という唄が現在に伝えられており、地域の誇りとして人々の記憶に留められている。

墓は石阪本人の遺言により野津田に建てられ、現在まで野津田青年会「凌霜会」や野津田町町内会により維持管理されてきた。石阪の歴史的な役割を知る上で象徴的な場所であるだけでなく、その遺徳をしのぶ地域の人々によって現在まで管理されてきた経緯は、石阪の人間性、地域社会との関係性を知る上でも貴重な事例といえよう。以上のことから、由緒ある場所・土地で市の歴史を理解するために必要なものとして町田市登録旧跡にふさわしいと思われる。